

## 139 ラザロの復活(1)(ラザロの死、イエスは復活と命)

ヨハネによる福音書 11 : 1~27

### ▶ラザロの死 (ヨハネによる福音書 11 : 1~17)

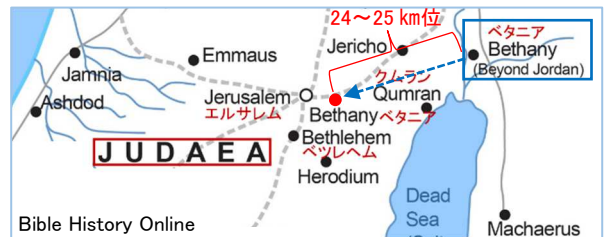
01 ある病人がいた。**マリア**とその姉妹 (→姉) **マルタ**の村、●**ベタニア**の出身で、**ラザロ** (→Lazarus、ヘブライ語で、神は助けるの意) といった。

→マリア (=マグダラのマリア) とマルタ、そして兄弟ラザロは、エルサレムの東、オリーブ山の斜面にあるベタニアの小村で共に暮らしていた。

→マルタ (姉) とマリア (妹) は、ルカ 10 : 38~42 に記されている。

→このラザロは、金持ちとラザロに登場するラザロ (ルカ 16 : 20) ではない。

02 このマリアは主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女 (→罪深い女ルカ 7 : 37、ヨハネ 12 : 3) である。その兄弟ラザロが病気であった。



03 (そこで) 姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「**主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです**」と言わせた。

04 イエスは、それを聞いて言われた。

「**この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである。**」

→ラザロの病気は、肉体の死で終わるものではなく、ラザロは復活し、神の栄光が現される。それによって神の子が、栄光を受けるのです。

05 イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。

06 ラザロが病気だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された。

→まだ、わたしの時が来ていないからである (ヨハネ 7 : 8c)。

07 それから、弟子たちに言われた。「**もう一度、ユダヤに行こう。**」

→イエスはヨルダン川の東岸 (上図の**青枠**) で、ラザロについての伝言を受け取った (ヨハネ 10 : 40)。

08 弟子たちは言った。「**ラビ、ユダヤ人たちがついこの間もあなたを石で打ち殺そうとしたのに、またそこへ行かれるのですか。**」

09 イエスはお答えになった。「**昼間は十二時間あるではないか。昼のうちに歩けば、つまづくことはない。この世の光を見ているからだ。10 しかし、夜歩けば、つまづく。その人の内に光がないからである。**」

11 こうお話しになり、また、その後で言われた。

「**わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く。**」

→イエスのこの言葉は、ラザロが死んだことを意味している (11 : 13)。イエスはラザロを死から蘇らせること (蘇生) でラザロを起こすのである。

### 【参考】 聖書の中の「死からの復活(厳密には、蘇生)」

1. 会堂長ヤイロの娘を生き返らせる→マルコ 5 : 41~42、ルカ 8 : 54~55 (ファイル No.077)
2. ナインのやもめの息子を生き返らせる→ルカ 7 : 14~15 (ファイル No.060)

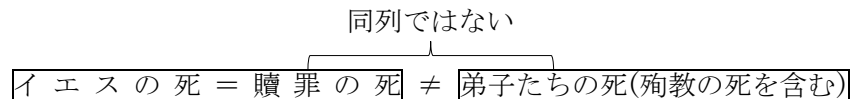
12 弟子たちは、「**主よ、眠っているのであれば、助かるでしょう**」と言った。

13 イエスはラザロの死について話されたのだが、弟子たちは、ただ眠りについて話されたものと思ったのである。

14 そこでイエスは、はっきりと言われた。「**ラザロは死んだのだ。15 わたしがある場に居合わせなかったのは、あなたがたにとってよかった。あなたがたが信じるようになるためである。さあ、彼のところへ行こう。**」

16 すると、ディディモと呼ばれるトマス（→ヨハネ 20 : 24、21 : 2）が、仲間の弟子たちに、「**わたしたちも行って、一緒に死のうではないか**」と言った。

→疑い深いトマス（ヨハネ 20 : 24～29）が自己犠牲の精神からか、落胆から出た開き直りの言葉を発している。



▶**イエスは復活と命**（ヨハネによる福音書 11 : 17～27）

17 さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたっていた。

→ファリサイ派の人たちは、死者の魂は死後 3 日間、世にあると教えた。4 日（→3 節：姉妹たちはイエスのもとに人を遣わして、使者がイエスの所に着くのに 1 日+6 節：イエスは二日間動かなかった+イエスたちがマルタとマリアの所に到着するのに 1 日）が経過したと言うことは、完全に蘇生の見込みがなくなってしまったことを表している。

18 ベタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンほどのところにあった。

→15 スタディオン×185m/スタディオン=2,775m

19 マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来ていた（→シヴァ）。

20 マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行ったが、マリアは家の中に座っていた。

→参考：マルタとマリア（ルカ 10 : 38～42）

【参考】ユダヤの葬式とシヴァ

1. ユダヤでは仏教のようにお通夜というものはなく、人が亡くなってからできるだけ早く葬式を行い、土葬にします。土葬は、棺桶はなく、亡くなった人を白い布に巻いて直接土の中に埋めます。これは、神がアダムを土から創られたように身体がすべてが土に帰るということを意味し、そして救い主が将来に現れたときに、全ての死者の蘇りを妨げないようにするためです。

2. 葬式が終わると、遺族はシヴァと呼ばれる 7 日間の喪に服します。仏教の初七日のようなものです。このシヴァの期間、遺族は心地よい椅子などには座らず固い床に直接座り、上着には切れ目または直接に生地を手で裂いて悲しみを表します。そして遺族は 7 日間、家を開放して、亡くなった方の友人や親戚などの訪問者を待ち、亡き人について語り、悲しみを分かち合い慰め合い、訪問者は遺族を心からいたわります。

3. シヴァの 7 日間が終わると、遺族にはそれからの一年間の喪がはじまります。また、一年間は、パーティーや結婚式、祭りなどには参加はできません。

21 マルタはイエスに言った。

「主よ、もし（主が）ここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。」

22 しかし、あなた（→主）が神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」

- 23 イエスが、「**あなたの兄弟は復活する**」(→NIV/NKJV : Your brother will rise again.) とされると、  
 → (真理発見訳) 「あなたの兄弟は**起き上がる**だろう」  
 → (回復訳) 「あなたの兄弟は**必ず復活する**」  
 → (口語訳) 「あなたの兄弟は**よみがえる**であろう」  
 → (協会共同訳) 「あなたの兄弟は**復活する**」

24 マルタは、「**終わりの日の復活の時に復活することは存じております**」と言った。  
 →新約聖書に登場する「終わりの日」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 7 / 聖句等の総数 33250 <終わりの日>7個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 終わりの日]
S ヨハネによる福音書	6:39 わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。	
S ヨハネによる福音書	6:40 わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」	
S ヨハネによる福音書	6:44 わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。	
S ヨハネによる福音書	6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。	
S ヨハネによる福音書	7:37 祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。	
S ヨハネによる福音書	11:24 マルタは、「 <b>終わりの日の復活の時に復活することは存じております</b> 」と言った。	
S ヨハネによる福音書	12:48 わたしを拒み、わたしの言葉を受け入れない者に対しては、裁くものがある。わたしの語った言葉が、終わりの日にその者を裁く。	

④旧約聖書には「終わりの日」は9聖句(申命記4:30、イザヤ2:2、エレミヤ23:20、30:24、48:47、49:39、エゼキエル38:16、ホセア3:5、ミカ4:1)に登場する。

25 イエスは言われた。

「**わたしは復活であり、命である**(→イエスの神性宣言)。**わたしを信じる者は、死んでも生きる。**26 **生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。**」  
 →イエスを信じる者は、肉体的に死んでも、霊的には永遠に生きる(肉体の死が、新しい霊的命をもたらす)。そして霊的命は、やがて栄光の体に結びつく。

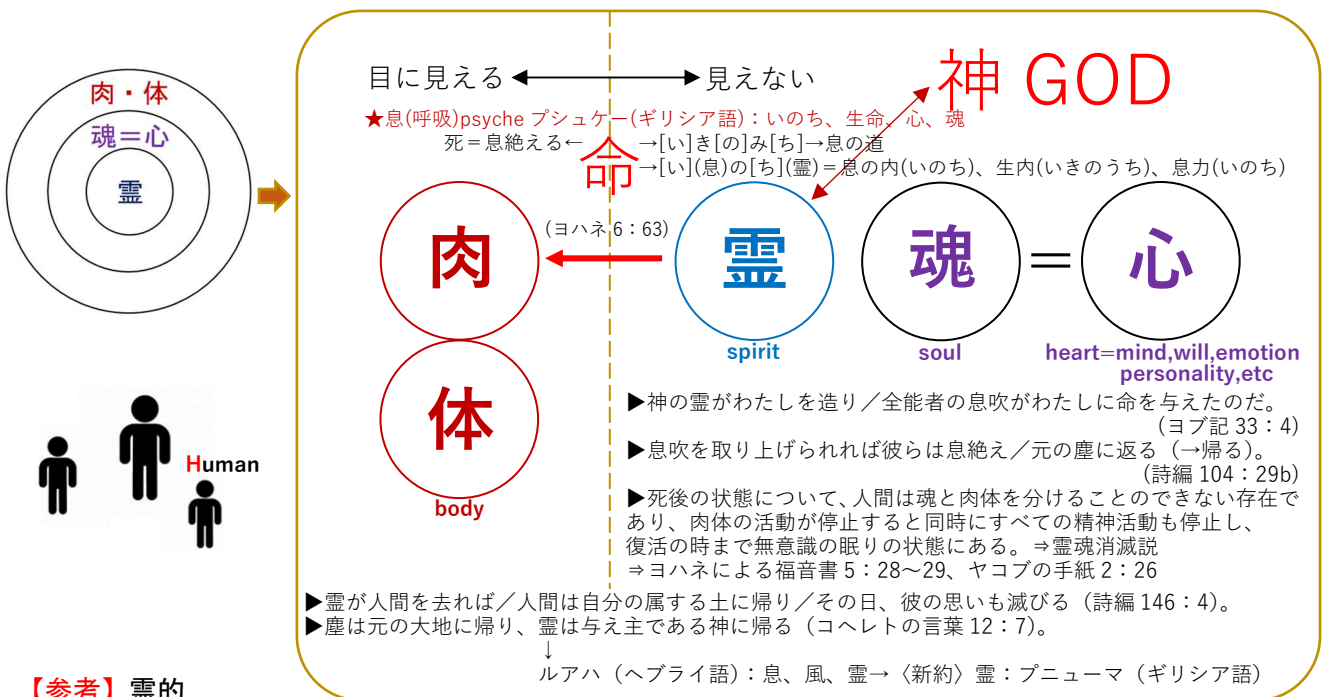
27 マルタは言った。「**はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。**」

→マルタの信仰告白

ただ、この時点では、マルタにはラザロが死から蘇るという信仰はない。

【参考】肉(体)、霊、魂、心 等

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 10 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K 民数記	27:16 「主よ、すべての肉なるものに霊を与えられる神よ、どうかこの共同体を指揮する人を任命し、	
K エゼキエル書	11:19 わたしは彼らに <u>一つの心を与え</u> 、彼らの中に <u>新しい霊</u> を授ける。わたしは彼らの肉から石の心を除き、肉の心を与える。	
K エゼキエル書	36:26 わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える。	
S ヨハネによる福音書	6:63 <u>命を与えるのは“霊”</u> である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。	
S コリント信徒への手紙 I	15:46 最初に霊の体があったのではありません。 <u>自然の命の体があり、次いで霊の体がある</u> のです。	
S ガラテヤの信徒への手紙	5:17 肉の望むところは、 <u>霊に反し、霊の望むところは、肉に反する</u> からです。肉と霊とが対立し合っているのです、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。	
S エフェソの信徒への手紙	4:4 <u>体は一つ、霊は一つ</u> です。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。	
S テサロニケの信徒への手紙 I	5:23 どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの <u>霊も魂も体も</u> 何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。 (聖書協会共同訳)また、あなたがたの <u>霊と心と体 (spirit, soul and body)</u> とを完全に守り、 <u>私たちの主イエス・キリストが来られるとき、非の打ちどころのない者としてくださいますように。</u>	
S ヤコブの手紙	2:26 <u>魂のない肉体が死んだものであるように</u> 、行いを伴わない信仰は死んだものです。	
S ペトロの手紙 I	3:18 キリストも、罪のためにただ一度苦しめられました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しめられたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。	



【参考】霊的

① ヒトの内面を指す。→ 人間は霊的存在である。

→ 人はパンだけで生きる (→ 息[生命活動の根幹]をする → 【いき】をす【る】 → 生きる) ものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる (マタイによる福音書 4:4 → 申命記 8:3)。

② 聖霊の働きを指す。→ 霊的賜物: 聖霊がくださる賜物=御霊(みたま)の賜物

【参考】 マグダラのマリアとベタニアのマリアは同一人物である

### マタイによる福音書

21:17 それ（宮清めの後）から、イエスは彼らと別れ、都を出てベタニアに行き、そこにお泊まりになった。

26:06 さて、イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンのお家におられたとき、



26:07 **一人の女**が、極めて高価な香油（＝ナルドの香油→混じり気のない甘松[かんしょう、オミナエシ科の多年生草本]で根や茎から香料を採る）の入った石膏の壺を持って近寄り、食事の席に着いておられるイエスの頭に香油を注ぎかけた。

27:56 ～十字架刑でイエスが息を引き取られた時～その中には、**マグダラのマリア**、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼバダイの子らの母がいた。

27:61 **マグダラのマリア**ともう一人の（ヨセの→マルコ 15:47）マリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

28:01 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、**マグダラのマリア**ともう一人のマリアが、墓を見に行った。

### マルコによる福音書

14:03 イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンのお家において、食事の席に着いておられたとき、**一人の女**が、純粹で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。

15:40 ～十字架刑でイエスが息を引き取られた時～また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、**マグダラのマリア**、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。

15:47 **マグダラのマリア**とヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

16:1 安息日が終わると、**マグダラのマリア**、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。

16:09 [イエスは週の初めの日の朝早く、復活して、まず**マグダラのマリア**に御自身を現された。

この**マリア**は、以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人である。

16:10 **マリア**は、イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいるところへ行って、このことを知らせた。

16:11 しかし彼らは、イエスが生きておられること、そして**マリア**がそのイエスを見たことを聞いても、信じなかった。

### ルカによる福音書

07:36 さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。

07:37 この町に**一人の罪深い女**がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、

07:38 後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。

07:39 イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。

08:02 悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいた**マグダラの女と呼ばれるマリア**、

08:03 ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。

24:10 それは、**マグダラのマリア**、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれら（→イエスの復活）のことを使徒たちに話したが、

24:11 使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。

### ヨハネによる福音書

11:01 ある病人がいた。**マリア**とその姉妹（→姉）**マルタ**の村、**ベタニア**の出身で、ラザロといった。→マリア（＝マグダラのマリア→次節 11:02）とマルタ、そして兄弟ラザロは、ベタニアの村で共に住んでいた。

#### 【参考】マルタとマリア（ルカによる福音書 10 : 38～42）

10:38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村（→ベタニア）にお入りになった。すると、（姉の）マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。

10:39 彼女（→マルタ）には**マリア**という姉妹（→妹）がいた。**マリア**は主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。

10:40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

10:41 主は答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。

10:42 しかし、必要なことはただ一つだけである。**マリア**は良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

11:02 この**マリア**は主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女である。その兄弟ラザロが病気であった。

11:03 姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです」と言わせた。

12:01 過越祭の六日前に、イエスは**ベタニア**に行かれた。そこには、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。

12:02 イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。

12:03 そのとき、**マリア**が純粹で非常に高価なナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。

19:25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアと**マグダラのマリア**とが立っていた。→【参考】

20:01 週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、**マグダラのマリア**は墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。

20:11 **マリア**（→マグダラのマリア）は墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、

20:12 イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。

20:13 天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、**マリア**（→マグダラのマリア）は言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」

20:14 こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。

20:15 イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」**マリア**（→マグダラのマリア）は、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教

えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」

20:16 イエスが、「**マリア** (→マグダラのマリア)」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「(わたしの) 先生 (ラビ)」という意味である。

→ラボニ=わたしの先生 (ラビ) →大いなる者、偉大な者、先生>ラボ

20:17 イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」

20:18 **マグダラのマリア**は弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

**【参考】ヨハネによる福音書 19:25** →マタイ 27:56 とマルコ 15:40 は同じ内容の記述がされている。

イエスの十字架のそばには、**①その母**と**④母の姉妹**、**⑤クロパ**[アラム語] (→アルファイ[ギリシア語]の別名=クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24:18]) の妻**マリア**と**②マグダラのマリア**とが立っていた。

(新共同訳、聖書協会共同訳)

→Near the cross of Jesus stood his mother, his mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW INTERNATIONAL VERSION)

→Now there stood by the cross of Jesus His mother, and His mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW KING JAMES VERSION)

→さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。(口語訳)

→イエスの十字架のそばには、彼の母、彼の母の姉妹でクロパの妻マリヤ (=母の姉妹とクロパの妻マリヤとが同じ人)、マグダラのマリヤが立っていた。(回復訳)

→兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。(新改訳)